



双塔

カトリック新潟教会

2020年8月
No. 387

教会の特徴

主人司祭 ラウール・バラデス

今は水曜日の勉強会で使徒言行録を読んでいます。それに関連のある解説を紹介させていただきます。

初代教会の特徴を、ざっとまとめてみよう。

(1) **学ぶ教会** 使徒言行録 2:42 の「教え」は受動態ではなく、能動態である。この節の意味は「人々は使徒が教える教えを聞き続けた」となる。教会が陥る重大な危険の一つは、前方を見ずに後方を振り返って、固定化した宗教になることである。キリストの富は無尽蔵であり、測り知れないのだから、わたしたちは進み続けるべきである。キリスト者は、日没の方ではなく、日の出の方へ旅を続けるべきである。わたしたちが何も新しいものを学ばず、神の知恵と恵みの中へさらに深く分け入らなかった日は、無駄な一日というべきである。

(2) **交わる教会** 誰かがこれを「最高の集い」と呼んだ。[中略] 教会は兄弟の群れとなる時にのみ、真の教会となる。

(3) **祈る教会** 初代のキリスト者たちは、自分自身の力で人生に立ち向かうことはできないし、また、そうする必要もないことを知っていた。彼らは人間に話す前に、いつでも神と話した。いつも世間に出て行く前に、神の所へ行った。まず神と会っていたので、人生のさまざまな問題に立ち向かうことができた。

(4) **敬虔な教会** 43 節にある言葉は、畏敬にあふれた敬虔な「おそれ」である。あるギリシャの偉人は、この世界がまるで神の宮でもあるかのように歩いた、といわれている。キリスト者は、全地が生ける神の宮であることを知って、敬虔に生きるのである。

(5) **何かが起こった教会** 多くの奇跡とするしとが、つぎつぎに行なわれた (43 節)。もし、わたしたちが、すばらしいものを神に期待し、神のためにすばらしいことをやってみようとするれば、その通りになるだろう。[中略]

(6) **共有の教会** (44-45 節) 初代のキリスト者たちは、互いに責任を負い合う意識が強かった。[中略] 真のキリスト者は、他の人には少なすぎて、自分にはあり余っていることには耐えられない。

(7) **礼拝する教会** (46 節) 教会員は神の家を訪れるのを忘れたことはなかった。「神は孤独な宗教を知らない」といわれているのを思い起こさなければならない。[中略] わたしたちが一つになるとき、何かが起こるはずである。神のみ霊は、神を礼拝する人々に働く。

(8) **喜びの教会** (46 節) そこにはよろこびがあった。陰気なキリスト者はここにはいない。キリスト者のよろこびは、騒々しいよろこびではなく、キリスト者の心に深く入っているよろこびであり、誰にも奪われることのないよろこびである。

(9) **好意を持たれた教会** 「良い」にあたるギリシャ語が二つある。一つは単に、なにかが「良い」という場合で、アガソスである。もう一つは、あるものが単に良いばかりではなくて「良くみえる」という意味のカロスである。これは、その周囲にあるものを引きつける魅力をもっている。真のキリスト教は、好ましいはずのものである。善良な人でも、醜いかたくなさを持っている人々が多い。あなたがたは、こういう人の肩にすがって、心から泣いたことは一度もなかったであろう。[中略] キリスト者が、ときどきでも好意をもたれるようなことをすれば、教会での奉仕も何か違ったものになるであろう。初代の教会では、神の民に魅力が備わっていたのである。

(使徒言行録 2:42-47) 「使徒行伝」 ウイリアム・パークレー著

そよかせ便り

■聖霊降臨の主日 5月31日（日）

キリストの聖体の祭日は、本来、「三位一体の主日」の週の木曜日に祝われるが、日本ではこの日が守るべき祭日ではないため、三位一体の主日直後の日曜日に祝う。

今日祝う「キリストの聖体」の起源は比較的新しく、約 800 年前にベネディクト会で始まった。

或るシスターが 16 歳の時から幻の中で何時もお月様を見ていて、お月様はある部分が欠けていたそう。満月では無くいつも欠けていた。どういう意味なのか？

ある日、イエス様が現れ「お月様は教会の典礼の暦みたいなものだ」と言われた。典礼の暦は復活祭から始まって、クリスマスやいろいろなお祝いがあるが、教会の典礼には欠けた部分があった。それは聖体を祝う祝日だ。キリストの聖体は何のためにあるのか？キリストの救いを思い起こすためにあるが、年間の節に特別な祝日は無い。

クリスマスはキリストの誕生、キリストの受難、キリストの復活とイエス様の生涯を思い巡らして典礼は出来上がっている。私たちの生活の中でキリストの救いの業はどれ程大切なのか、私たちが頂いている恵みを生活の中で表すように大きな助けと招きに年間がある。私たちは今日、キリストの聖体を見つめながらキリストの聖体の恵みのことを思い出し、神が私たちを愛して下さったことを記念することを強く願っている。私たちはキリストの恵みに強められているので、周囲の人にキリストに支えられ、生かされて幸せに暮らすことが出来るように願いたい。（説教より）

※聖体賛美式での典礼的な動作として、会衆は椅子に座らずに跪くのが正式です。



■ベトナム語ミサ 7月5日（日）年間第14主日

15時から聖堂でベトナムの信徒の集いを東京大司教区 吉祥寺教会からフック神父様（S.V.D）をお招きし、ゆるしの秘跡を授け、ベトナム語でのミサを司式して下さった。神父様の説教は全てベトナム語で話されたため、掲載は断念。また、ミサ前に奉納の練習をしていた男女数名の本番は素晴らしく、民族衣装のアオザイ姿の女性信徒の皆さんの姿はここが新潟教会であることを忘れるようだった。



ミサの最後に、本日のミサを司式して下ったフック神父様と新潟教会主任司祭のラウル神父様に感謝をこめて花束が贈呈された。ラウル神父様は感謝を込めてベトナムの信徒の皆さんに「日頃は近くの教会のミサに足を運ぶように言われ、毎月第3日曜日に新潟教会で信徒の集いなどを行いながら日本の信徒の人たちと協力しながら共同体を築ければ良い」言われた。会場をセンター2階に移して簡単な茶話会が開かれた。会話はほとんどがベトナム語であったが、皆さんが話される上手な日本語に驚いた。新潟教会代表し、日本人目線での感想が、ベトナム信徒の皆さんに翻訳され報告された。内容は「ゆるしの秘跡が終わるまで、センター2階で奉納のときに歌う聖歌の練習する姿が印象的だった。特に眼が輝いていた。」そして、新潟教会主任司祭としてラウル神父様も簡単な自己紹介などを行った。また、新潟教会のHPでベトナム語のお手伝いをしてくれる人も募集していると言われた。

本日参加されたベトナムの信徒の皆さんは、長岡、宮内、見附、三条、五泉、新潟市内と住んでいる地域は別々だが、第3日曜日に賑やかな集いを今後も続けてくれることだろう。日本の皆さんも、楽しい輪の中に入ってみませんか。最初は、おはようございますという意味、Xin chào！（シンチャオ）から声をかけてみては。

2020年8月の予定

※予定は随時変更になる可能性があります。ご了承ください。

日	主日、祭日、祝日、祈願日等	教会の行事
2日(日)	年間第18主日	・小教区評議会(9:30 ミサ後) ・英語ミサ(12:00) ・センター&外のトイレ清掃(英語ミサ後)
6日(木)	主の変容(主日)	日本カトリック平和旬間 8月6日(木)~15日(土)
9日(日)	年間第19主日	
10日(月)	聖ラウレンチオ助祭殉教者(祝日)	
15日(土)	聖母の被昇天(祭日)	・ミサ(9:30~、11:00~) ・タルチシオ菊地功大司教様 霊名の祝日
16日(日)	年間第20主日	・広報部会(9:30 ミサ後)
23日(日)	年間第21主日	・聖堂、センター&外のトイレ清掃(各ミサ後)
24日(月)	聖バルトロマイ使徒(祝日)	
30日(日)	年間第21主日	

※「教会の行事」が変更される場合は、日曜日毎に発行の「お知らせ」などでお伝えします。

※ ミサ時間：主日日曜日(7:00 9:30 18:00) 英語ミサ(第1日曜日 12:00)
週日(7:00、金曜日のみ10:00)

9:30のミサ、11:00のミサ2部制で行います。

各回、それぞれ朗読と共同祈願を選出します。急遽、朗読等をお願いすることがありますので、その際は快く引き受けくださるようよろしくお願い致します。



<http://nc.catholic-niigata.net/>

カトリック新潟教会 月刊「双塔」毎月1回 最終日曜日発行 編集・発行/カトリック新潟教会 小教区評議会 広報部

〒951-8106 新潟市中央区東大畑町通一番町656 TEL:025-222-5024 FAX:025-222-5054